連合平和行動2026

ピースメッセージ ＃1

UA ゼンセン　T･I さん

2026 平和行動 in 根室に参加させて頂き自身の知見を広げることができました。

元島民の古林さん･児玉さんのお話は大変貴重で初めて知ることが多く、引揚までのいきさつや、当時の切実な想いに触れ胸が締め付けられました。また、旧ソ連兵の方が、自身も同じ歳くらいの子がいると幼い児玉さんを抱き上げた話は、支配の恐怖と隣り合わせの中にも同じ人間同士、心が通じあう瞬間があったのだと胸が熱くなりました。

これまで単なる知識でしかなかった北方領土問題が、個人の人生の話に変わり一気に身近に感じられました。

目の前に見えるのに行くことのできない北方領土。
元島民の方の平均年齢は 90 歳を超え、当事者の方々がご存在のうちに解決してほしいという強い想いと、一筋縄ではいかない現実に胸が痛みます。

せめて中断している交流事業の早い再開を願います。この問題が風化しないため、今回の経験や想いを多くの人に伝え、この運動を知るきっかけになればと思います。

連合平和行動2026

ピースメッセージ ＃1

UA ゼンセン　N･Y さん

　私が 2026 平和行動 in 根室に参加して一番に感じたこと、それは自分の北方領土問題に対する理解がいかに乏しかったかということを痛感しました。

　実際に元島民の方の話を聞いて、私の領土問題としての認識が間違っていたことに気づかされました。

　特に衝撃を受けたのは国後島の元島民の古林さんのお話です。「強制送還では網袋に積まれて荷物のように扱われ、ろくに食べものも与えられず、栄養不足でなくなってしまった人たちは海に流された。」とおっしゃっていました。

　人としての尊厳を蹂躙するような行為があったこと、それを知らなかった自分に対してやり場のない感情がこみ上げてきました。そんな経験をされて 80 年近くが過ぎてもなお、自分の故郷に戻れない。島に降り立ってお墓参りをすることさえも叶わない元島民の方の悲しみを身に染みて感じました。

　そんな経験を語ってくださる元島民の方々の平均年齢も 90 歳に達し、生存者は 5,000 名を下回っている現状を思うと、一日も早い解決が重要だと強く感じました。

　私が今回感じたことを一人でも多くの人に知ってもらうことが解決への一助となることを信じて、周囲の人に伝えることから始めたいと思います。

連合平和行動2026

ピースメッセージ ＃1

JEC 連合　N・S さん

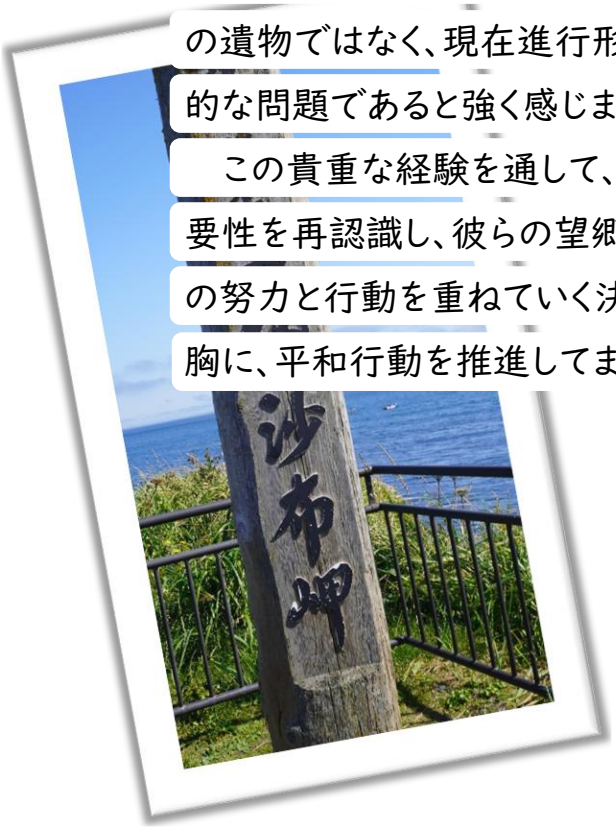
　根室の最東端、納沙布岬から望む北方領土は、肉眼でその島影をはっきりと捉えられるほどの近さにありながら、決して足を踏み入れることのできない現実を改めて痛感いたしました。

　目で見える距離に故郷があるにもかかわらず帰郷することができないという事実が、どれほどの無念さを生むのか、その距離は視覚的に近ければ近いほど、心理的な隔たりを際立たせるようでした。

　その後行われた元島民の方々の講話では、幼い頃の豊かな自然や家族との思い出、そして突然の別離、故郷を奪われた深い悲しみと怒り、それでもなお平和的な解決を願い、その想いを次世代に託そうとする強い決意に深く胸を打たれました。言葉一つ一つに、歴史の重みと切実な願いが込められており、私はただ聴き入るばかりでした。

　集会では、この問題が依然として未解決であり、そして当事者である元島民の方々の高齢化が進む中で、その貴重な体験と記憶をいかに次世代へと語り継いでいくかという喫緊の課題を認識しました。北方領土問題は、決して過去の遺物ではなく、現在進行形の私たちの課題であり、平和と人権に関わる普遍的な問題であると強く感じました。

　この貴重な経験を通して、私たちは一日も早い問題解決に向けた活動の重要性を再認識し、彼らの望郷の念と平和への願いを未来へ繋ぐため、今後一層の努力と行動を重ねていく決意を新たにいたしました。この日の感動と決意を胸に、平和行動を推進してまいります。



連合平和行動2026

ピースメッセージ ＃1

JEC 連合　K・H さん

今回、平和行動 in 根室に参加し、北方領土問題について改めて考える機会となりました。

特に心に残ったのは、元島民の方から直接お話を聞いたことです。
故郷を突然離れることになり、長い年月が経った今も自由に帰ることができず、納沙布岬から北方領土を実際に見て、すぐ近くに見えていても自由に行くことのできない『近くて遠い故郷』であることを実感しました。

また、故郷へ戻れないことだけではなく、先祖のお墓参りをすることもできないという話が心に残りました。

戦後80年以上が経過し、元島民の方々の高齢化が進む中、一日も早い問題解決が必要だと強く感じました。

今回の経験を通して、北方領土を過去の出来事として終わらせず、元島民の方々の思いを受け止め、家族や職場、次の世代へと伝えていくことが大切だと思いました。

平和な日常を当たり前と思わず、これからも平和について考えていきたいと思います。